

大村市政だより

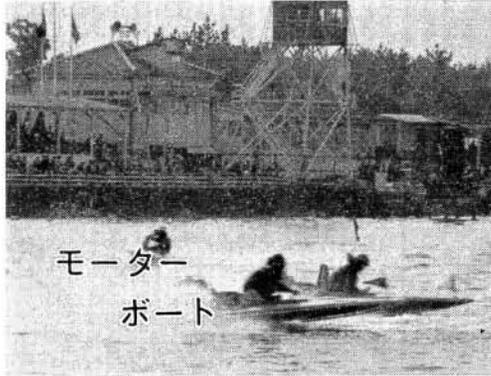
業務状況等説明書 特別号

この特別号は、市が経営しているボート事業、水道事業、病院事業の状況を説明するものです。

■昭和33年4月22日第三種郵便物認可 ■毎月3回1日・10日・20日発行 ■定価1部5円
■発行所 大村市役所 ■編集人 総務課長 森 辰 男 ■印刷所 隆文社印刷所

〔市営企業〕

業務状況等説明書



モーターボート

一日平均売上
七百六十六万七千円
前年より十九・九パーセント増

大村市告示 125号

地方公営企業法第40条第1項並びに大村市営企業の業務状況を説明する書類の作成に関する条例第2条、及び第3条の定めるところにより、昭和40年度前期分の大村市営企業業務の動向及び財政事情を次のとおり公表する。

昭和40年12月1日

大村市長 大村純毅

(別表1)

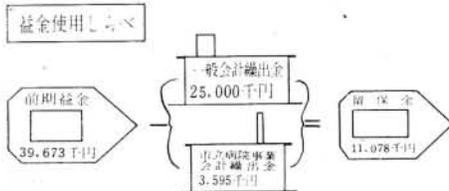
建設改良工事 (単位円)	
主審室補強工事	35,000
場内自動電話取付工事	258,940

(別表2) 経理の状況 (昭和40年9月30日現在) (単位千円)

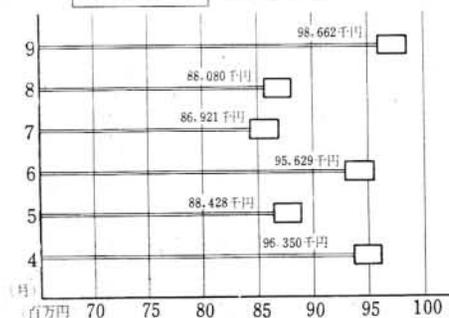
区 分	予 算 額				予算執行額
	当期予算額	繰上予算額	繰下予算額	合 計	
収益的収入					
第1款モーターボート競走事業収益	1,010,966	0	0	0	1,010,966
第1項営業収益	1,009,358	0	0	0	1,009,358
第2項営業外収益	1,608	0	0	0	1,608
合 計	1,010,966	0	0	0	1,010,966
収益的支出					
第1款モーターボート競走事業費用	953,747	0	0	0	953,747
第1項営業費用	952,167	848	0	0	953,015
第2項営業外費用	80	0	16	0	96
第3項予備費	1,500	△ 848	△ 16	0	636
合 計	953,747	0	0	0	953,747
差引当年度利益剰余金	57,219	0	0	0	57,219
資本的収入					
第1款資本的収入	30,168	0	0	0	30,168
第1項固定資産売却代金	168	0	0	0	168
第2項貸付金	30,000	0	0	0	30,000
合 計	30,168	0	0	0	30,168
資本的支出					
第1款資本的支出	86,969	0	0	0	86,969
第1項建設改良費	2,874	0	0	0	2,874
第2項貸付金	83,595	0	0	0	83,595
第3項予備費	500	0	0	0	500
合 計	86,969	0	0	0	86,969

企業債の借入れはありません

備考 (1) 当年度末利益剰余金39,673千円、(2) 25,000千円、(一般会計) 3,595千円、(市営病院事業会計) 一般会計
主要な収入、支出、貸付、不足は、(1) 繰上予算額56,801千円、(繰下) 繰上利益剰余金991千円、(2) 当年度末利益剰余金2,225千円、(3) 当年度末利益剰余金33,595千円、繰上利益剰余金0円



月別売上 1カ月12日開催





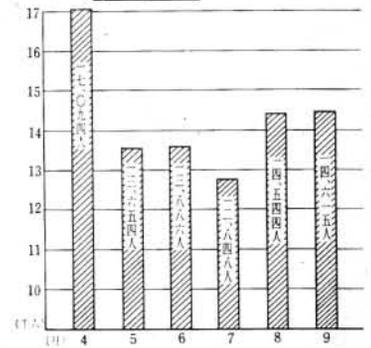
水道

新料金で赤字解消に努力 給水戸数—七千五十一戸

(1) 事業の概況

水道事業は市民の健康な日常生活に役立ち、公衆衛生の向上、都市を火災からまもるなど重要な事業で、地方公営企業法により独立採算によって経営されております。また、過去十年間水道料金をすえ置き、合理化や経費の節減に努力してきましたが、近年の急速な物価上昇や人件費の膨張などにより非常に苦しい経営となり、昭和三十九年度は千二百七十万円の赤字決算となっております。この赤字解消、急増する給水量や施設の老朽化による水圧低下地区の対策などのため、市民の皆様のご理

入場入員



(1) 事業の概況

海事思想の普及と地方財政への寄与という目的達成のため、開設以来努力を続けてきたモーターボート競走事業も、昭和四十年九月末において、七百六十六万七千円の一日平均売上げとなり、昨年同月一日平均売上げ六百三十九万九千九百九十九円九パーセント上回った実績をあげております。

(2) 経理の状況

前期の経理は別表(1、2)のとおりで、一般会計への繰出金二千五百円。また、売上実績の上昇とともに場内施設及び入場者へのサービスにも努力を続け、さらに発展の方法を考え、目的達成のため今後運営面も改善して、明るい競艇場にして行きたいと存じます。

(3) 企業債および一時借入金の現在高

百万円、市立病院事業会計へ三百五十九万五千円、合計二千八百五十九万五千円を他会計へ支出しており後期はさらに努力を続ける予定であります。

企業債の借入および一時借入金はありません。

別表1 経理の状況 (昭和40年9月30日現在) (単位千円)

区 分	予 算 額				
	当初予算額	補正増減額	合 計	予算執行額	
収益的収入	第1款 水道事業収益	59,976	0	59,976	28,526
	第1項 営業収益	54,932	0	54,932	25,670
	第2項 営業外収益	5,044	0	5,044	2,856
	合 計	59,976	0	59,976	28,526
収益的支出	第1款 水道事業費用	59,976	0	59,976	23,169
	第1項 営業費用	51,670	0	51,670	19,520
	第2項 営業外費用	7,306	0	7,306	3,649
	第3項 予備費	1,000	0	1,000	0
合 計	59,976	0	59,976	23,169	
資本的収入	第1款 資本的収入	5,501	0	5,501	2,500
	第1項 固定資産売却代金	1	0	1	0
	第2項 寄附金	5,500	0	5,500	2,500
	合 計	5,501	0	5,501	2,500
資本的支出	第1款 資本的支出	13,584	0	13,584	3,349
	第1項 建設改良費	9,066	0	9,066	1,363
	第2項 企業債償還金	4,018	0	4,018	1,986
	第3項 予備費	500	0	500	0
合 計	13,584	0	13,584	3,349	

給水関係工事

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計	
新設工事	直営業者	1	0	3	1	2	1	8
	業者	54	38	51	33	22	24	222
増設変更工事	直営業者	3	0	0	1	0	0	4
	業者	41	60	47	50	44	29	271
修繕工事	74	71	77	61	67	93	443	
漏水修理	190	204	260	257	296	242	1,449	

解をえて水道料金を改正しました。このおもな内容は、従来のメーター使用料を廃止し、用途別による通減方式に改め、特に浴場営業用、共用栓の基本料金はすえ置くよう配慮しました。これにより約千六百万円の増収が見込まれますが、健全な経営をするようさらに努力を続けております。現在給水区域内の給水戸数は九月末日で七千五十一戸となり、三月末に比し二百六十五戸の増加で普及率は六二、三五%であります。

(2) 経理の状況
前期の経理は別表(1)のとおりとなっております。

(3) 企業債および一時借入金金の現在高
企業債、一時借入金については別表(2、3)のとおりとなっております

企業債明細書

(昭和40年9月30日現在) (単位千円)

起債目的	借入先	発行年月日	発行総額	倍還高		未償還残高	利率	償還終期
				当年度償還高	償還高累計			
上水道施設事業費	大蔵省資金運用部	23. 6. 30	700	33	593	107	7分5厘	42. 3. 1
上水道拡張事業費	〃	28. 3. 31	10,000	531	7,075	2,925	6分5厘	43. 3. 31
上水道ダム分担金	〃	36. 10. 30	20,000	216	1,378	18,622	〃	61. 2. 1
〃	〃	37. 5. 31	62,000	629	2,952	59,048	〃	62. 2. 1
〃	公営企業金融公庫	37. 5. 31	15,000	577	1,731	13,269	7分4厘	52. 3. 20
合計			107,700	1,986	13,729	93,971		

一時借入金明細書

(昭和40年9月30日現在) (単位千円)

借入目的	借入先	借入年月日	金額	利率	返済期日
運営資金	大蔵省	40. 9. 27	4,000	日歩1銭8厘	40. 12. 27
〃	郵政省	40. 9. 10	10,000	〃	40. 12. 9
合計			14,000		



市立病院

医療サービスの向上に努力
ベットの一般転用を実施

(1) 事業の概況
本病院事業は、常に市民に対する医療サービスができるように、すでに診療内容の充実と諸施設の整備をはかり、また患者の福祉増進に寄与しながら総合病院としての使命達成に努力し、経営の合理化をはかってきました。また全国的な傾向にある結核入院患者の減少は、当院においてもその影響が表われ、この重大性を考慮し、本年六月から一部病床の転用許可を受け、入院患者の利便をはかると共に事業効果を高めております。

配水量表

区分	配水量	1日平均配水量
4月	191,698	6,390
5月	189,888	6,125
6月	191,566	6,386
7月	217,569	7,018
8月	237,627	7,665
9月	206,004	6,867
平均	205,725	6,742

建設改良工事

大村市9号ポンプ所新設工事	2,952
松原浦地区配水支管布設工事	97
水主町送水管布設工事	600

本期間における患者数は別表のとおりで、前年同期に比し、入院患者において約一、五パーセントの増、外来患者において約二〇パーセントの減を示しております。

(2) 経理の状況

本期間における経理の状況は別表(一)のとおりであります。資金面については、地方公営企業法適用以前(昭和三十九年度以前)において病棟の建設改良資金を繰上充用の予算執行により一時借入金にたよった関係などのため、運営資金として一時借入金の借り換えによって資金繰りを行なっている実状であります。

(3) 企業債及び一時借入金の現在高

昭和四十年九月末の企業債及び一時借入金の総額は別表(2、3)のとおりで、本年度に支払った企業債償還金利子は九十五万八千三百二十三円、一時借入金の利子は百三十二万二千三百二十円であります。

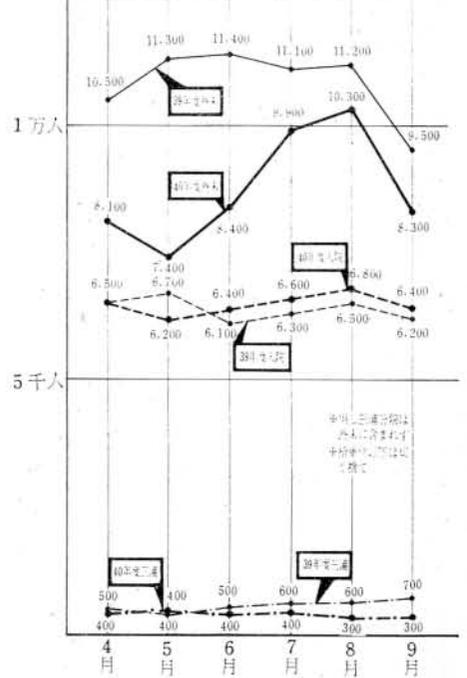
調剤数 (本院) 単位: 件

月別	40年度	39年度	比較
4	10,801	9,791	1,010
5	10,318	10,204	114
6	10,937	10,531	406
7	11,572	11,035	537
8	11,760	10,667	1,093
9	11,087	10,026	1,061
計	66,475	62,254	4,221
一日平均	404	379	25

経理の状況 昭和40年9月30日現在 単位: 千円

区 分	子 算 額			子算執行額
	当初予算額	繰越金	合 計	
収益的収入				
第1款 病院事業収益	180,666	0	180,666	98,281
第1項 医業収益	178,745	0	178,745	97,363
第2項 医業外収益	1,921	0	1,921	918
合 計	180,666	0	180,666	98,281
収益的支出				
第1款 病院事業費用	180,666	0	180,666	79,010
第1項 医業費用	173,129	0	173,129	76,378
第2項 医業外費用	7,301	2	7,303	2,632
第3項 予備費	236	△2	234	0
合 計	180,666	0	180,666	79,010
資本的収入				
第1款 資本的収入	3,598	0	3,598	3,595
第1項 他会社からの補助金	3,595	0	3,595	3,595
第2項 固定資産売却代金	1	0	1	0
第3項 国庫補助金	1	0	1	0
第4項 他会計からの長期借入金	1	0	1	0
合 計	3,598	0	3,598	3,595
資本的支出				
第1款 資本的支出	9,638	0	9,638	3,845
第1項 建設改良費	6,043	0	6,043	2,076
第2項 企業債償還金	3,595	0	3,595	1,769
合 計	9,638	0	9,638	3,845

昭和40年度前半期患者数調



企業債明細書

(別表2)

昭和40年9月30日現在 (単位: 千円)

起債目的	借入先	発行年月日	発行総額	償 還 高		未償還残高	利 率	償 還 終 期
				当年度償還高	償還高累計			
病院建設費	郵政省	30.5.24	22,000	809	8,745	13,255	年6分5厘	昭和47.3.31
〃	〃	31.3.31	1,200	68	825	375	6分5厘	43.3.31
〃	〃	31.4.27	7,400	421	5,089	2,311	6分5厘	43.3.31
〃	大蔵省	31.7.30	10,000	329	3,559	6,441	6分5厘	48.3.31
看護婦寄宿舎建設費	郵政省	32.3.30	2,000	71	858	1,142	6分3厘	47.3.31
医師住宅建設費	大蔵省	33.3.31	5,000	71	768	4,232	6分5厘	57.2.1
合 計			47,600	1,769	19,844	27,756		

一時借入金明細書

(別表3)

昭和40年9月30日現在 (単位: 千円)

借入目的	借入先	借入年月日	全 額	利 率	返 済 期 日
運営資金	郵政省	40.7.5	25,000	日歩1銭8厘	40.10.5
〃	大蔵省	40.9.17	25,000	〃	40.12.16
合 計			50,000		